

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国語科（指名者講習）	2	2年1類	
授業担当者		教科書名	副教材等
****		精選論理国語（東京書籍） 精選古典探究（東京書籍）	古文単語330(いっずな書店) 他

科目の到達目標
現代の国語・言語文化の基礎的な内容の復習によって、一年次に学習したことの強化を図る。
主に一年次の古典学習の基礎を復習し、授業の補習を行うことによって、授業内容の理解度を高める。
適宜、小テストや定期考査対策を行い、学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。

評価の観点と方法について
課題や授業プリントの提出と小テストによって、授業の理解度を確認するとともに、授業態度、中間・期末考査の成績の結果をもってその評価とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一 学 期	4	一年次の復習 動詞・形容詞・形容動詞 助動詞など	・古典文法の基礎を確認する。	・プリントを用いて古典の基礎的な内容を復習する。
	5	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」 説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」	・物語の内容がとらえられているかを確認する。 ・敬語表現の基本的な知識が身につけているかを確認する。	・主語、語句の意味、助動詞の意味をおさえる。 ・敬語表現を復習する。
		漢文 小話 「先従隗始」	・故事成語の背景が正しくとらえられているかを確認する。	・訓読上のきまりをより正しく理解させる。
	6	1 学期中間考査	・中間テスト対策	
	7	歌物語『伊勢物語』 「初冠」 随筆『枕草子』 「雪のいと高う降りたるを」 「宮に初めて参りたるころ」 漢文「不死之薬」	・物語の内容がとらえられているかを確認する。 ・自然や人間についての古人の優れた感性を知る。 ・句法及び訓読の基本について、理解させる。 ・期末テスト対策	・和歌の基本的な知識を身につける。 ・敬語表現が理解できているか確認するとともに、歌の修辞法などについて復習する。 ・訓読上のきまりをより正しく理解させる。 ・現代文、古典ともに要点を整理する。
		1 学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	1学期の復習 物語『更級日記』 「門出」「物語」	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎知識を定着させる。</li> <li>日記の内容がとらえられているかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な問題の解き方を身につける。</li> <li>漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。</li> <li>重要単語や文法をおさえ、日記の内容を復習する。</li> </ul>
	10	漢文 『史記』 「四面楚歌」	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容が理解できているか確認する。</li> <li>中間テスト対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な句形や基本語句をおさえる。</li> <li>書き下し文や口語訳の復習。</li> <li>現代文、古典ともに要点を整理する。</li> </ul>
	11	2学期中間考査 物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」「若紫」	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の内容がとらえられているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要単語や文法をおさえ物語の内容を復習する。</li> <li>敬語を抜き出し、その種類と誰の誰に対する敬意かを確認する。</li> </ul>
	12	漢文『史記』 「項王自刎」 2学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容が理解できているか確認する。</li> <li>期末テスト対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な句形や基本語句をおさえる。</li> <li>書き下し文や口語訳の復習。</li> <li>現代文、古典ともに要点を整理する。</li> </ul>
三 学 期	1	2学期の復習 歴史物語『大鏡』 「鶯宿梅」 随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎知識を定着させる。</li> <li>歴史的背景とその人間関係をおさえ、物語のあらすじがつかめているか確認する。</li> <li>内容がとらえられているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な問題の解き方を身につける。</li> <li>漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。</li> <li>重要語句や文法、敬語表現などを復習し、口語訳ができるようにする。</li> <li>重要語や句法をおさえ、書き下しや口語訳を復習する。</li> </ul>
	2	漢文「五柳先生伝」	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容が理解できているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な句形や基本語句をおさえる。</li> <li>書き下し文や口語訳の復習。</li> </ul>
	3	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年末テスト対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文、古典ともに要点を整理する。</li> </ul>
<p>その他（履修上の留意点） 予習・復習を徹底して行い、課題や小テストにも意欲的に取り組むこと。</p>				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国公立対策講習	2	2年1類 (A・B・C型)	
授業担当者	教科書名		副教材等
****	国語：なし 英語：なし		国語：共通テスト対策問題集など 英語：単語帳、プリントなど

<p>科目の到達目標</p> <p>国語：1、2年での学習を基礎として、国公立大学入試に対応するための力を養う。入試問題を読み解くために必要な知識や思考力を身につけ、解答を導き出す力を養う。</p> <p>英語：3年次に受験する共通テストを意識し、長文読解に必要な語彙力と文法力の習得を目指して進めていきます。</p>
---

<p>評価の観点と方法について</p> <p>国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。</p>
---

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
一 学 期	4	1学期 ・問題演習	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これから古文や漢文の学習を行っていくうえで必要となる基本的な文法事項を確実に身につける。</li> <li>評論文と小説の読解力を身に付ける。</li> </ul>	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章読解をしながら重要事項を確認していく。</li> <li>同じ問題を繰り返し演習させることで、知識の定着を図る。</li> <li>過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。</li> <li>短めの文章を使い、論理や心情を把握する練習を積む。</li> </ul>
	5			
	6		<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文法の土台作りに励む。</li> </ul>	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組む。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。</li> </ul>
	7	夏期講習		

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9	2学期 問題演習	国語 ・「読む力」と「解く力」の両方をさらに伸ばし、進研模試での志望校C判定を目指す。	国語 ・過去の模試で出題された問題に取り組み、出題意図を踏まえながら、解く力を身につける。
	10		英語 ・文法の土台作りに励む。	英語 ・入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組む。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。
	11			
	12	冬期講習		
三 学 期	1	問題演習	国語 ・制限時間内に正確に読んで、解く力を身に付ける。	国語 ・読解量を徐々に増やし、制限時間に文章を読み切る力を養う。 ・多様な形の思考力を問う問題を演習する。
	2		英語 ・文法の土台作りに励む。	英語 ・入試問題などを通して、それぞれの文法項目に取り組む。基本事項を確認、復習しながら、間違った問題の原因を探る。
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

国語：授業での学習事項が基礎となります。授業内容の理解、小テスト等への取り組みだけでは足りません。できるだけ自分に合った参考書を探して読み、理解を深めてください。

英語：週に1時間の授業です。1年間では約30回しかありません。この授業を受けて、希望進路を実現できるというわけではありません。こちらが提示する課題をやり抜いてください。英語はなかなか自分の力が伸びていることを実感しにくい科目だと思いますが、私が受験指導を通して得てきたことを伝えていきたいと思いますので、頑張ってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習 (数学ⅡB)	2	2年・1類・B型	
授業担当者	教科書名		副教材等
****	新編 数学ⅡB (数研出版)		NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅱ+B (東京書籍)

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、
数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて評価をする。
具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	(数Ⅱ) x、yで直線・円を表現する。	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式	定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。
	5	第1章 式と証明 第2節 複素数と方程式	(数B) 高次方程式を、因数分解を利用して解く。	2次方程式の解と係数の関係 複素数の計算 剰余の定理・因数定理	複素数の計算を正しく行える。 2次方程式の解を求めることができる。 解と係数の関係を理解できる。
		<中間考査> 第3章 数列 第1節 等差数列・ 等比数列 第2節 いろいろな数列	(数Ⅱ) 等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	等差数列・等差数列の和 等比数列・等比数列の和 いろいろな数列の和と記号Σ 階差数列と数列の和、いろいろな数列の和	数列の規則性を理解し、一般項を求めることができる。 Σ記号を使いこなせるか。
	6	第5章 指数関数と対数関数	(数B) マクロやミクロの世界の物差しとしての対数の必要性を理解させる。定義をきちんと理解させる。	指数拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数・常用対数	指数計算、対数計算を正確にすることができる。 指数、対数の方程式、不等式を解くことができる。
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	(数Ⅱ) 三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	弧度法で表された角の三角比の値を求めることができる。 加法定理・三角関数の合成を用いて、三角方程式・不等式を解くことができる。
	10	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布  <中間考査>	(数B) 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積	確率変数の確率分布を求めることができる。 様々な確率変数の期待値や分散を、公式を利用して求めることが出来る。
	11	第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分	(数Ⅱ) 現代数学の架け橋となった微分の定義を理解させその応用分野の広さを考えさせる。	微分係数・導関数 接線の方程式 増減表と極大・極小 不定積分 定積分と面積	微分係数の意味を理解しているか。その発展として導関数を自由にこなせるか。 微分の反対である積分を理解し定積分の応用に発展できるか。
	12	<期末考査>	(数B) 連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積	連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。
三 学 期	1	2節 統計的な推測	(数B) 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。	母集団と標本 標本平均の分布 推定 仮説検定	復元抽出と非復元抽出について理解している。 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 共通テストや各種学校の入試に対応できる。
	2	<学年末考査>			
	3				
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>数学Ⅱの単位が4、数学Bの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。教科書の例題や問を補習的に進めていき、問題集の問題を課題として出す。授業についていくためにも復習は必ず行いたい。基本問題だけでなく授業についていけるように応用問題も取り入れていく。問題に対応するためには、普段から問題に対してなぜそうなるのか自分で考え、苦手な学習者は何度も何度も解答を覚えるほど繰り返してほしい。自から身についてくる。寮や自宅での学習の習慣を身に付けたい。日々継続した学習を心がけてほしい。真摯な態度で受講することを強く望む。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
英語課外講習(指名者)	—	2 学年 1 類	
授業担当者	教科書名		副教材等
****	BIG DIPPER English Communication II Vision Quest English Logic and Expression I・II		LEAP Vintage

<p>科目の到達目標</p> <p>英語コミュニケーション：①教科書の英文の内容を理解し、設問に適切に答えられる。 ②教科書に出てくる重要語(句)を覚え、正しく使うことができる。</p> <p>論理表現：英文法の基礎を理解し、知り得た知識を表現活動に利用することができる。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>出席の状況、授業中の取り組みの態度、課題の提出の内容等を総合的に判断する。特に出席状況と授業中の取り組みの態度を重視する。</p>
--

	月	学習単元・項目 英コミュ	学習単元・項目 論理表現	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	Lesson 1	Vision Quest ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I Lesson 9	英語コミュニケーション： ① 新出単語・熟語を習得する。 ② 教科書の内容を理解する。 ③ 教科書の本文を音読する。 ④ 本文の定められた範囲を暗唱する。	○休まず出席しているか。 ○積極的に活動しているか。
	5	Lesson 2 《中間考査》	Lesson 10 《中間考査》	論理表現： ① 説明を聞き、理解する。 ② 教科書の問題を使って演習し、理解度を確かめる。 ③ ワークを使ってさらに演習する。	○正しく理解しているか。 ○課題を期限内に提出しているか。
	6	Lesson 3	Lesson 10		
	7	Lesson 4 《期末考査》	Lesson 11 《期末考査》		

	月	学習単元・項目 コミュ英	学習のねらい 英語表現	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	Lesson 5	Lesson 12		
	10	Lesson 6	Option 3		
			Option 4		
	11	《中間考査》	《中間考査》		
			Option 5		
Option 6					
12	Lesson 7	Option 7			
		Option 8			
		Option 9			
		《期末考査》	《期末考査》		
三 学 期	1	Lesson 9	<b>Vison Quest</b> ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION II Lesson 1		
	2	Lesson 10	Lesson 2		
			Lesson 3		
	3	《学年末考査》	《学年末考査》		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

最も重要なものは「授業」です。授業に積極的に参加し、自ら理解しようとする気持ちがなければ、講習だけを受けても何の意味もありません。兎に角1回、1回の授業を大切にしてください。そして、出された課題には真摯に取り組んでください。しかし、よく授業を聞いていても理解が難しいところが出てくるかも知れません。そんな時は遠慮なく質問してください。喜んで何度でも説明します。指名者講習は学期ごとにメンバーが見直されます。早く英語が克服できるよう、一緒に頑張りましょう！